

歯科衛生士研修会



対象 歯科衛生士

定員 各回 50 名

第1回 プログラム

研修コード **A2-1**

開催日時 令和4年7月24日(日) ①10:00～11:30 ②12:30～14:00

申込期間 令和4年5月23日(月)～7月15日(金)

① 多職種ですすめる要介護高齢者への 口腔ケア

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 地域・福祉口腔機能管理学分野 教授 **松尾浩一郎**

歯科医療従事者が日常的に要介護高齢者の口腔ケアを行うことは困難のため、多職種連携が必要です。そこで、口腔ケアにおける職種別の役割を把握し、多職種連携を行う際の歯科衛生士の役割について理解を深めます。

② 歯科衛生士による 周術期等口腔機能管理と病診連携

東邦大学医療センター大森病院 がんセンターがん口腔機能管理部 歯科衛生士 **久保田玲子**

周術期等口腔機能管理を担う歯科衛生士は、より多くの疾患への理解と様々な病態に合わせた対応が求められます。また、対象疾患の拡大により、病院だけでなく歯科診療所での管理も必要とされています。周術期等口腔機能管理における歯科衛生士の役割と病診連携の実際について学びます。

第2回 プログラム

研修コード A2-2

開催日時 令和4年8月28日(日) ①10:00～11:30 ②12:30～14:00

申込期間 令和4年6月27日(月)～8月19日(金)

① 歯科衛生士が知っておくべき歯の発育とその異常

東京歯科大学 小児歯科学講座 主任教授 新谷誠康

小児の歯科診療では、歯の発育過程で起こり得る異常を把握し、将来を見据えた管理を適切に行っていくことが必要です。歯科衛生士が日々臨床で遭遇する歯の発育異常や萌出異常、近年注目されるMIHなどについて学びます。

② 糖尿病患者へのエビデンスに基づいた歯周治療

東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 歯周病学分野 准教授 片桐さやか

歯周病が全身に影響を及ぼす代表的な疾患として糖尿病があげられます。糖尿病患者の歯周治療を行う際に、歯科衛生士として知っておきたい歯周病と糖尿病の関わりをエビデンスを交えてご紹介します。

第3回 プログラム

研修コード A2-3

開催日時 令和4年10月2日(日) ①10:00～11:30 ②12:30～14:00

申込期間 令和4年8月1日(月)～9月22日(木)

① 口腔習癖 ～見逃してはいけない小児期のサイン～

山口歯科医院 院長 河井 聡

小児期における口腔習癖は、口腔の機能や形態に影響を及ぼすため、早期に対応することが大切です。今回は、歯科衛生士が知っておくべき口腔習癖の基本的な知識やMFTなど、口腔習癖に対するアプローチ方法について学びます。

② はじめてみよう!障害のある人のセルフケアの支援

当センター 歯科衛生士 森田寛子

障害のある人は、認知機能や運動機能の遅れなど、様々な要因からセルフケアが困難となりやすく、支援に悩むことが多くあります。障害のある人のセルフケアの自立支援について、歯磨きの診査方法や支援方法などを具体的に解説していきます。